

通常の学級における  
**個別の指導計画**  
様式例・記入例 = 第2版 =

本様式例は、基本タイプ、学期タイプ、教科毎タイプに分かれていますので、児童生徒の状況や学校の実情に応じて様式を選択、変更し活用してください。

また、平成17年3月に特別支援教育推進体制モデル事業「小・中学校における校内支援体制整備と連携に関する研究委員会」が作成した「個別の指導計画 - 様式例・記入例 -」も参考にしてください。

様式例の掲載先 山梨県教育委員会特別支援教育ホームページ  
<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/tokubetsushien/tokubetsushienkyouiku.html>

平成28年3月  
山梨県教育委員会

## 1 通常の学級における個別の指導計画

平成24年に文部科学省が公表した、「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」によると、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は、6.5%（推定値）とされています。

本調査の結果は、どの学級においても、学習障害等の障害のある、またはその疑いがある児童生徒が必ず在籍している可能性を示唆しています。

これらの児童生徒の学校生活を充実し、豊かな学びを保障するためには、教職員が児童生徒の発達特性を十分に理解し、指導や支援を工夫することが重要となります。また、関係する教職員が共通理解を図り、指導や支援を行うことで、より効果的な指導や支援を行うことが可能となります。

学習上、行動上の困難さがある児童生徒へ適切に指導や支援を行うためには、実態把握に基づいた目標設定、指導や支援内容の明確化を図ることが必要です。また、児童生徒自身の変容を評価し、指導方法や支援内容の修正をして行くことが必要となります。

個別の指導計画は、これらの取組を行うためのツールとして活用します。

## 2 個別の指導計画の作成に関する基本的な考え方

通常の学級に在籍する全ての児童生徒一人一人が個性があり、指導や支援が必要な存在です。その中でも、障害がある（疑いがある）児童生徒へは、特に指導や支援の工夫が求められます。

### 実態把握について

- ・「ができない。」「をして困る。」などの学習上、行動上の表面的な課題だけに注目するのではなく「この子の課題の背景には、どのような原因があるのだろうか。」「どのような気持ちで行動しているのだろうか。」など、その背景を考慮ことや児童生徒の心情理解に努めることが大切です。
- ・良いところや頑張っていること、興味のあることにも着目することが、児童生徒の成長の可能性を広げることに繋がります。
- ・担任のみで実態把握を行うのではなく、校内委員会等の場を使い、複数の教職員の視点で実態把握を行うことが大切です。

### 目標の設定について

- ・目標は、欲張らず、見通しをもって段階的に設定することが基本です。
- ・できるだけ具体的に達成可能な内容にすることが、児童生徒に達成感をもたせ、適切な評価を行うコツです。

### 手立て（支援の内容）について

- ・手立て（支援の内容）については、必要に応じて保護者との共通理解を図ります。また、家庭での取組や保護者の考えも聴き取りながら、検討することも有効です。
- ・校内委員会やケース会議等の場で相談しながら検討することも重要となります。

### 評価について

- ・評価は目標と関連づけて行います。
- ・目標設定を行う際に、評価をする時期も決めておきます。この期間の長さは、児童生徒の状況や目標の内容等によって1週間から数ヶ月単位と様々です。

## 3 個別の指導計画の活用について

### 個別の指導計画の作成と活用

この様式例は、あくまでも一例です。学校や学級の状況、児童生徒の実態に応じて、作成・活用がしやすい様式に変更してください。

個別の指導計画は作成することが目的ではありません。作成後に児童生徒が望ましい姿に変容するための取組を行うために活用することが目的です。

#### 合理的配慮と個別の指導計画

「障害者の権利に関する条約」及び障害者基本法には、障害者に対し合理的な配慮を行うことが示されています。また、障害者差別解消法により、公立学校では、合理的配慮の提供が義務づけられています（私立学校においては努力義務）。

通常の学級に在籍している障害のある児童生徒に対しても、必要に応じて合理的配慮の提供を行うこととなります。その際には、合理的配慮の内容について本人・保護者と可能な限り合意形成を図り、個別の教育支援計画に明記することが望ましいとされています。

個別の指導計画を作成する際には、個別の教育支援計画に明記された合理的配慮の内容を基に、目標や手立て（支援の内容）等に反映させることとなります。

### 個別の指導計画様式例について

個別の指導計画の様式例は、基本タイプ、学期毎の評価タイプ、教科毎タイプの3種類があります。タイプ別に、その特徴を説明します。

#### 個別の指導計画（通常の学級用【基本タイプ】様式例）について

- 基本的な配慮・支援の内容を上段に記入し、下段には、特に配慮や支援を必要とする教科等について児童生徒の実態、目標、手立て、評価を記入するタイプです。
- 学習上、行動上の困難さがある児童生徒に対し、必要な教科等、単元を選択し作成することとなります。
- 単元毎に実態や目標等を記入するタイプなので、計画から評価までのサイクルが比較的短期間であることが特徴です。

#### 個別の指導計画（通常の学級用【学期毎の評価タイプ】様式例）について

- 学期毎に実態、目標、手立て、評価を記入するタイプです。
- 学期毎の目標設定となるので、計画から評価までのサイクルを3～4ヵ月に設定することを想定しています。
- 下段には、指導や支援の具体的な活動前の計画を記入し、活動後にその結果を評価する欄になっています。上段に記入した実態や目標、具体的な手立てを基に、学習や活動毎に手立て（支援の内容）の計画を立て、その振り返りを行うことにより、有効な手立て（支援の内容）を評価することができます。
- 教科毎に手立てを細かく設定することまでは必要なく、学期中の主立った行事や学習活動に際し、手立てを考える必要がある場合に有効な様式例です。

#### 個別の指導計画（通常の学級用【教科毎タイプ】の様式例）について

- 上段に児童生徒の実態、目標を記入し、右の欄にその目標を達成するための手立て（支援の内容）を記入し、手立てに対する評価や児童生徒の変容に関する評価を行います。
- 計画から評価の期間（取組の期間）は児童生徒の実態に応じて適宜設定します。
- 中段は、各教科毎の実態や目標を記入する欄になっています。全ての教科等について記入するのではなく、児童生徒の困難さが顕著に表れる教科等に絞り込んで記入するようにします。
- 下段は、学校生活全般に必要な配慮や支援の内容を記入します。
- 興味・関心の偏りがあり、特定の教科について配慮を必要とする場合や、学習障害のように特定の能力に落ち込みがみられる場合に有効な様式例です。

### 個別の指導計画

（通常の学級用【基本タイプ】記入例）

作成年月日 平成 年 月 日

学校名

児童生徒名		学年・組	年 組
記載者氏名	× ×	評価年月日	平成 年 6月 日

#### 基本的な配慮・支援の内容

（全教科等で共通すること、学校生活で共通した配慮や支援の内容について記入する。）

実態	目標（望ましい姿）	具体的な手立て	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>気に入らないことや、上手く行かないことがあると周囲の友人や大人のせいにしたがる。</li> <li>順番を守ることができず、友人とトラブルになることがある。</li> <li>学習面での遅れはなく、授業中も積極的に発言する。</li> <li>思いついたことは、挙手をせずに発言する事が多い。</li> <li>手先が器用で、工作や細かい絵を描くことが得意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団内のルール(挙手をして発言をする、順番を守る)を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体で授業中のルールを繰り返し確認する。</li> <li>ルールが守れている子どもは、本児以外でもできるだけ賞賛する。</li> <li>学級全体で、順番を守らないケースや人の話を聞かない、自分の話を聞いてもらえない時の気持ちを振り返る時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番を守る、挙手をして発言をする等のルールの理解は、まだ不十分である。さらに視覚的な教材を工夫することや個別にルールの説明を行うなどが必要。</li> <li>図工の時間の発表をとおして、人に自分の気持ちを伝え、心地よい体験を積むことができた。今後も継続し、自信をつけさせたい。</li> </ul>

#### 教科での配慮・支援内容（特に支援を配慮・支援を必要とする教科について記入）

教科等	単元	実態	目標	手立て	評価
理科	水の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の際に順番を守ることが難しいときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番を守って、実験に参加することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に1番に実験をしながら、必ずできることを確認する。</li> <li>実験に入る前に、実験の順番カードで順番を決めておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の順番カードの順番を守る事ができず、実験への参加意欲が低下してしまった。順番カードの使い方の工夫が必要。</li> </ul>
図工	よく見てかこう	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かい箇所まで、よく観察し、書くことができる。</li> <li>丁寧に色を塗ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫したこと、頑張ったことを発表し、自信をもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの時間の作品紹介で発表することを事前に教師と練習しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習どおり発表することができた。</li> <li>友人からもほめられ、自信をつけた様子であった。</li> </ul>

個別の指導計画 【1学期】

（通常の学級用【学期毎の評価タイプ】記入例）

作成年月日 平成 年 月 日

学校名 市立丸の内小学校

児童生徒名		学年・組	4年1組
記載者氏名	×××	評価年月日	平成 年7月20日

学期の配慮・支援の内容（特に重点を置く内容を記入）

取組期間	平成 年4月18日 ~ 7月20日		
実態	目標（望ましい姿）	具体的な手立て	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートや筆箱などの持ち物の整理や管理が難しい。</li> <li>衣服は長袖を好むなどこだわりがある。</li> <li>集団行動では、説明やルールの理解が難しいことがあり、周囲の友だちの動きをみて行動している。</li> <li>金魚の水替えや餌やりを熱心に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容やルールの理解をし、集団に沿った行動をすることができる。</li> <li>わからないことや困ったことがあるときには、教師や友人に尋ねることがきできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への説明の後に、個別に確認をする。</li> <li>説明の重要なポイントを板書やメモで本人が確認できるようにする。</li> <li>（板書にマークをつける。ミニホワイトボードの活用など）</li> <li>困った時に教師にSOSを求めるためのサインを本人と相談して決めておく。（お助けカードの活用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の説明は、必ず板書やメモで確認をすることで、理解ができていた。</li> <li>集団内で困ったときの「お助けカード」は、本人も興味を示し、有効であった。</li> </ul>

指導・支援の具体的な計画や記録（活動前の計画又は事後の記録として記入する。）

日	学習・活動の内容	目標	手立て（支援の内容）	児童・生徒の様子（評価）
5月 日	校外学習の事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の日程を知り、見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に用意した写真やVTRを活用するなど視覚的な教材と文字（ことば）での説明を行う。</li> <li>クラス全員に日程が分かるカードを配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真やVTRを集中して見る事ができた。</li> <li>日程を復習する場面では、自信を持って発言する事ができた。</li> </ul>
5月 日	校外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったことや分からないことは教師に聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「困った時のお助けカード」（場面を想定し、教師への質問の仕方を書いたカード）を準備し、家庭でも練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お弁当の後の行動が分からなかった時に、「お助けカード」を見て、教師に質問することができた。</li> </ul>
6月 日	道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み物教材を読んで、自分なりの感想を発言することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に読み物教材を配布し、個別に質問内容を知らせておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を読んでいるときは集中できなかったが、考えを発言する場面では、積極的に参加することができた。</li> </ul>
7月 日	児童集会(全校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったことやわからないことは教師や友人に聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じグループの教師とSOSサインを決めておく、困った時に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指サインをSOSサインとして決めていたが、本人がうまく使うことができなかった。</li> </ul>

個別の指導計画（記入例）

（通常の学級用【教科毎タイプ】記入例）

児童生徒名		学年・組	3年2組	記載年月日	平成 年4月18日
記載者氏名	×××	評価年月日	平成 年7月20日		

基本的な配慮・支援の内容（全教科等で共通すること、学校生活で共通した配慮や支援の内容について記入する。）

児童生徒の実態	目標	手立て（支援の内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばで気持ちや状況を伝えることが苦手。</li> <li>長い説明は、集中して聞くことは難しい。</li> <li>作文等の文章を書くことは苦手意識が強い。そのため、教師が本人との会話を通して聴き取ったことを文章化するなど個別の支援を必要としている。</li> <li>当番活動や係活動は真面目にこつこつと取り組み、友人にも認められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み書きに対する苦手意識を和らげる。</li> <li>短い文章を自分で考えて書くことができる。</li> <li>文字の違いや、間違えたことに、気づくことができる。</li> <li>自分の良いところに気づき、自信をもつ。</li> <li>自分の気持ちや言いたいことを言葉で伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を間違えても、本人に気づかせ、気づけたことをほめる。</li> <li>真面目に役割を果たしていることを、機会を捉えて学級全体に紹介する。（今日のヒーローのコーナーを活用する。）</li> <li>友人への相談、言葉かけの仕方を、生活の中でお手本を示すよう心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>字形の違いや間違いに気がつくことができるようになった。</li> <li>短文の作成は、教師との会話をヒントに書くことができる。</li> <li>当番活動の場面で自分の考えを言葉で伝えようとする姿が見られた。</li> </ul>

各教科毎の配慮・支援の内容（特に配慮や支援が必要な教科等について記入。全てを記入しなくてもよい。必要に応じて行は増やす。）

教科等	単元名	実態	児童生徒の目標	手立て（支援の内容）	評価
国語	各単元の書く、読むの指導領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の読み書きに困難さがある。</li> <li>片仮名、平仮名を混同してしまう。</li> <li>細かな形の違いを見分けるのが苦手なため漢字を書くことが難しい。</li> <li>文章の音読が困難。（たどたどしい読み方。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名の違いに気がつくことができる。</li> <li>間違えた漢字を書いていることに気がつくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名の一覧表を用いて、視覚的にわかるようにする。</li> <li>漢字を間違えてもすぐに消さずに、正しい漢字と比較し、違いに気がつくことができる。（ミニホワイトボードを活用する。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名を混同することが少なくなってきた。（「サ」と「ヤ」の間違いは継続）</li> <li>漢字の間違いに、自分で気がつくことができるようになった。</li> </ul>

生活・行動面の配慮・支援の内容

活動の内容	目標	手立て（支援の内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>いきもの係</li> <li>清掃当番</li> <li>朝の会、帰りの会の司会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったことや大変なことがある場合は同じ係、班の友人に相談しながら仕事に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体に、困った時は人に相談をし、協力し合いながら物事に取り組むことの大切さを指導する。</li> <li>学級全体で「今日のヒーロー」のコーナーでは、協力し合えたことや、友だちの話を良く聞いたことを中心に発表するように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体で取り組んだことにより、6月の中旬から数回自分から友人に相談する場面が見られるようになった。</li> </ul>